

第三期西成特区構想における取組みの方向性【子育て・教育分野】について（素案）

《総論》

- ・西成特区構想の終局的な目標である「若者や子育て世代の流入促進」の達成に寄与するように、子育て世帯の幅広いニーズを満たす事業へと再構築のうえ、各種の取組みを実施していく。

《各分野における取組みの方向性》

○ 子育て分野について

プレーパークの新たな展開

これまでは、もと津守小学校を中心に開催してきたが、令和２年度からは出張開催も開始し、区内巡回型としてより多くのかたに、より広い層のかたに利用してもらうことで、実際に「こどもの居場所」を増やししながら、西成区が子育て施策の充実に取り組んでいるというイメージを広げていく。

あわせて、こどもの好奇心を刺激し、物事への興味や関心を広げる仕掛けをプレーパークに導入し、学習の土台となる学習意欲の引き上げや、地元企業と連携した出前授業など、キャリアを考える機会の充実を図り、第三期のめざす児童生徒の学力向上へもつながるよう取り組んでいく。

学習姿勢の定着に向けた取組み

これまで「登校までの支援」、「学力に課題を抱える層の基礎学力向上」について取組みを実施し、成果を上げてきた。一方、これまでの取組みではカバーしきれていない、「学校には出てくるが、席について授業を受けることが難しい」学習姿勢に課題を抱える児童も存在する。

小学校低学年では、遊びから勉強へ、個人・小集団から学級での集団指導への変化といった幼稚園や保育園と小学校とのギャップにより、「学校には来るが席について授業を聞けない」といった児童が少なからず存在する。

この状況に十分なケアがなされないと、学力低下や不登校状態に繋がることも考えられることから、現在は十分なフォローができていない学習姿勢に課題を抱える児童についてもフォローすることで、課題の芽を早期に摘み取ることをめざし、サポーターを配置するなど取組みを行う。

○ 教育分野について

学力向上に向けた取組み

学力の向上に向けては、これまで学力に課題を抱える層の課題解決に主眼を置いた補習的な学習を実施してきた。

第三期では学力に課題を抱える層へのサポートは継続しつつ、大阪市平均やそれ以上の層まで含めた幅広い層に対応できる習熟度に応じた学習内容に変更し、それぞれの層で学力が向上するように内容を見直すとともに、指導体制についてもより充実させて効果を上げていく。

あわせて、より高い事業効果を発揮するために、今まで以上に学校現場と密に連携を図り、学校での放課後学習と区の基礎学力向上支援事業（ジャガピースクール）が相乗効果を発揮し、区全体の学力向上に効果的なものになるよう、今後、事業の再構築も含めて検討を進めていく。